

研 究 分 野	資源管理	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	資源回復計画推進事業（ヒラメ釣獲試験）		
予 算 区 分	漁業調整費（交付金）		
試験研究実施年度・研究期間	H19 年度～H23 年度		
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

ヒラメは青森県沿岸の全域で漁獲され、本県太平洋海域では刺し網、定置網、釣り及び底曳網で漁獲される重要魚種である。特に本県太平洋南部海域では、秋季に刺し網により小型魚が非常に多く漁獲され、漁法の性格上、小型魚の再放流が難しい状況にあるため、資源管理上問題となっている。資源管理方策の一つとして、へら曳き釣りによるヒラメの釣獲試験を実施し、釣り漁法への転換の可能性を探った。

〈試験研究方法〉

平成 20 年 7 月～9 月の 3 ヶ月間、市川漁協に所属する漁業者 7 名に、へら曳き釣りによるヒラメ釣獲試験を依頼し、漁獲場所、水深、漁獲時間及び全長別の漁獲尾数を調査野帳に記入してもらった。

また、釣獲されたヒラメの全長から体重を推定し、三沢市漁協の一本釣り活魚の銘柄別単価を乗じることによって漁獲金額の推定を行った。

〈結果の概要・要約〉

図 1 に全長別水深別漁獲尾数を示した。7 月には水深が浅いほど漁獲尾数が多く、水深が深いほど大型魚が漁獲された。漁獲尾数は 9 月に多い傾向が見られた。

表 1 に漁業者別月別出漁日数と 1 日当たりの平均漁獲金額を示した。7 月に漁業者 G は 2 日しか出漁しておらず、漁業者 C は 1 日、漁業者 D は 2 日しか漁獲できなかった。これらのデータを除くと 1 日当たりの漁獲金額は月平均で約 1,800 円～約 9,200 円であった。最も漁獲金額の高かった漁業者 A は月平均で約 5,800 円～約 9,200 円であった。平成 19 年には 1 日当たりの漁獲金額が徐々に増えていたが、その増加傾向は平成 20 年になっても続いていた。

図 2 に三沢市漁協の一本釣り活魚の月平均単価を基に算出したヒラメ 1 尾当たりの金額を示した。8 月は全長 45cm、1 尾と全長 30cm 未満、10 尾分とが同程度の金額となった。ヒラメの単価を考慮して、釣りへの漁法転換を進める必要がある。

〈主要成果の具体的なデータ〉

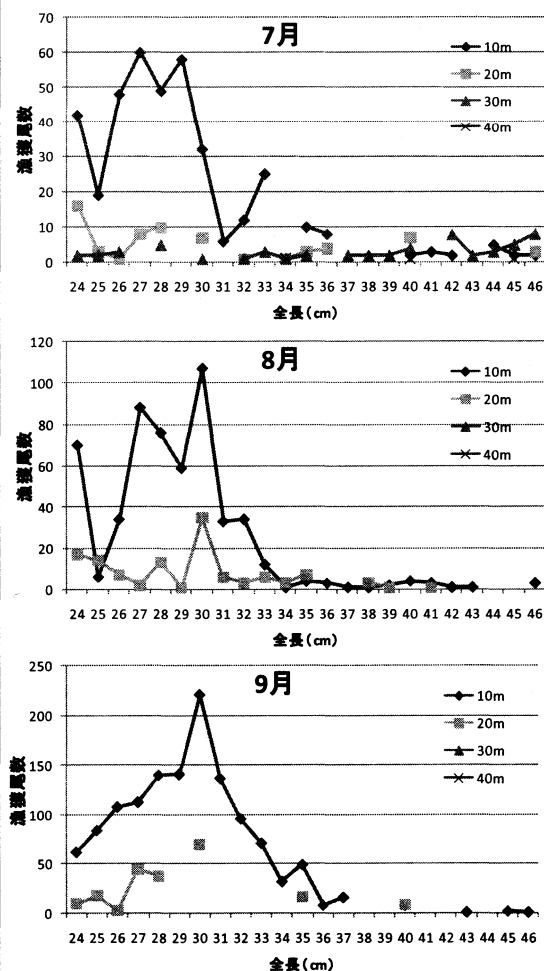


図1 ヒラメの全長別水深別釣獲尾数

〈今後の問題点〉

漁法の違いによる単価への反映状況など実態に関する情報が不足

〈次年度の具体的な計画〉

調査を継続する。

〈結果の発表・活用状況等〉

漁法転換を図る際の基礎データとする。

表1 平成20年漁業者別月別出漁日数と1日当たりの平均漁獲金額

出漁日数							
	A	B	C	D	E	F	G
7月	15	6	4	3	8	7	2
8月	7	7	10	6	3	5	
9月	12	12	6	3	3	4	

日平均漁獲金額							
	A	B	C	D	E	F	G
7月	5,792	1,859	334	412	2,452	2,508	959
8月	6,028	3,258	1,984	1,801	2,156	1,813	
9月	9,228	5,084	2,972	6,070	3,423	1,654	

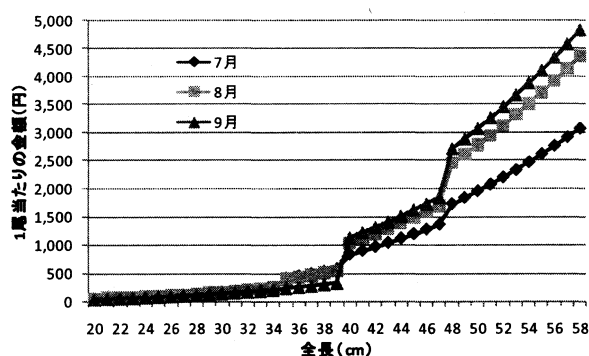


図2 三沢市漁協ヒラメ一本釣り活魚の月平均単価を基に算出した1尾当たりの金額